先輩訪問

井上芳史さん　70歳を前に一念発起！

飯田　清久

今年68歳を迎えられた井上芳史さん。ご自身視覚障害のある井上さんは盲学校理療科教員退職後、長年描き続けてきた視覚障害者の働く場づくりを開始。2018年には就労継続支援B型事業所「てとてあさひ」を開設し、2023年5月にはご自身の財産を提供して新たに事業所を建設オープンさせました。70歳を目前にして大きな決断そして行動を起こしたのです。

井上芳史さん（「てとてあさひ」の前で）

法人理事長と事業所長を兼務する井上さん、「てとてあさひ」を利用する視覚障害のある方々が心から信頼を寄せているのがわかります。情報アクセス・交通アクセスのハンディキャップなどを抱えて孤立しがちな視覚障害者にとって、安心して活動できる場、仲間と話して元気になれる場として、「てとてあさひ」がその役割をしっかり果たしていることが利用者のみなさんの表情から感じ取ることができます。利用者一人ひとりに「体調は大丈夫？」「雨が降ったけど濡れなかった？」など声をかけ日常生活の困りごと相談にきめ細かく応えて、いつも穏やかに相手の話を受けとめ、時にはスベッてしまうダジャレも交えて必要なアドバイスを提供する。そこには障害当事者だからこそわかる井上さんの感性と、もって生まれた人柄がにじみ出ているようです。

やさしい空気に包まれた「てとてあさひ」、あん摩の施術に来られるお客さんの口コミが広がり、施術客数も順調に増えて予約でいっぱいの日もあるようです。また軽作業で作ったかごや布草履などのオリジナル作品も個別注文の依頼が増えています。

これから10年20年と事業所の活動が続くよう、その基礎作りに励む井上さんの奮闘に心からエールを送りたいと思います。そして視覚障害者に信頼され、地域に必要とされる事業所となっていってほしいと心から願うものです。

第39回高知平和美術展
平和が脅かされる…危機感あふれる作品群

ウクライナにおける戦闘の泥沼化と、中国、北朝鮮の動向を睨んだ軍事力強化キャンペーンが保守派を中心に展開され、自・公・維新・国民の悪政4連合が言いたい放題・やりたい放題の国会となっています。私達の平和的に生きるわずかな望みもないがしろにされ、健康保険証まで取り上げようと財界と一体の企みが展開されています。

このような政治状況の中で、第39回高知平和美術展は開催されました。実行委員会を立ち上げた直後、11月18日に窪川の山本哲資さんが、6月30日には事務局長の川村圭三さんと、長年平和展を支えてくれた人を相次いで失うという残念な事態に私たちは茫然と立ち尽くすしかありませんでしたが、みんなで力パーしあいながら、何とか開催にこぎつけました。

あまりの直前で、川村さんの作品は本人が出品したいと言って病と闘いながら描いた作品だけは展示できました。山本さんの作品は、ご遺族にお願いして7点、

山本哲資さんの「見えない怪物」

遺作コーナーを作って展示することができました。広島のことや、3・11大津波、原発事故などを題材に人間愛に満ちた表現、地元窪川の自然を描いた風景画など山本さんの個性が光る作品群です。ご遺族の方々には何かとお世話をおかけして申し訳なく、感謝しかありません。川村さんの遺作展示は来年40回展で企画します。

さて、今年の作品の出品状況は64人から99点が寄せられ、やや少なかったですが、全体として平和が脅かされる危機感に反応した内容が多く、見ごたえのある展示会となりました。絵画50点、彫刻立体3点、書20点、写真9点、デザイン1点、工芸11点、絵手紙3組、短歌（15人16点）でした。

期間中の入場者は455人とまずまずの成果をおさめて、来年は40回展記念を盛大に迎えようと決意を新たに閉会しました。

（高知平和美術会・森哲実）